［演題２］

新型コロナウイルス感染症により臨床実習経験が不足した作業療法学生への就職受け入れ施設における対応
―就職採用判断と新人教育体制の分析―

冨田　創[1)]，生嶋　みのり[1)]，坂口　美沙[1)]，小川　真寛[2)]
1）神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科４年
2）神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科

【序論】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により臨床実習が臨地で行えず、学生は不安を抱えたまま就職する事態が発生している。このような事態に対して採用施設はどう対応したのだろうか。この疑問を明らかにすることは、我々がこの困難な状況にどう立ち向かうべきかについて有益な情報が得られると考えた。

そこで、本研究の目的は、COVID-19の影響により実習経験が不足した学生に対する施設側の採用と新人教育の対応について明らかにすることとした。

【方法】

日本作業療法士協会の会員施設一覧の検索サイトから作業療法士の会員数が20名以上の410施設を対象に、作業療法士の教育もしくは求人担当者宛てに郵送によるアンケート調査を実施した。

【結果】

アンケートの返信は228通あり、55.6％の回収率であった。採用判断に実習経験の不足が影響しないとの回答した割合は 74.1％、影響するという回答は 25.0％であった。その理由としては、実習に行けなかったことは仕方がないことで、実習経験より社会性や人間性を重要視していることが挙げられた。実習経験が不足した学生を採用するにあたり、例年と異なる対応を実施・検討すると回答は 72.9％であった。これらの施設は新人教育の強化や研修期間の延長など教育体制の見直しが検討されていた。それに対して例年と異なる対応を実施しないと回答した施設は全体の 13.3％であった。これらの施設は以前より新人教育の整備がなされており、質の高い卒後教育が重要であると回答した施設もあり、新人教育に対して意欲的に取り組んでいる傾向が伺えた。

【考察】

本研究の結果から、COVID-19の影響による実習経験の不足が採用判断に多くの施設で直結しないこと、経験の不足を補うよう新たな新人教育体制が構築され、職場内教育の充実への布石になった可能性がある。また採用判断には実習も重要ではあるが、在学中から学生は社会性の向上に取り組むことや、就職活動の際に教育体制にも興味を持って行動することの重要性が示唆された。